

公務非正規労働従事者への緊急アンケート 第一次結果報告～公務非正規女性 全国ネットワーク（はむねっと）

伊藤久雄（NPO法人まちぼっと理事）

公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）が、全国の公務非正規労働に従事している方々を対象に、緊急Webアンケートを4月30日（金）から6月4日（金）に実施し、全国47都道府県から1000人を大きく上回る当事者の声を集めました。

この調査は、全国の公務非正規労働に従事する幅広い職種の方を対象とした初めての調査で、当事者が呼びかけ、直接、個々の当事者が回答したものとして、初のアンケート調査になります。

調査結果は7月5日、記者会見で発表され、大きな反響が呼び起こしました。この第一次結果報告は、A4判、16ページになりますが、参考資料にアドレスを掲載しています。ぜひ、お読みいただければと思います。

○ 調査結果から（抜粋）

調査結果からは、回答者（有効回答数、1,252人）のうち、9割以上が女性であること、40歳代、50歳代で6割以上を占めていること、47都道府県すべてから回答があったこと、30種類以上の職種から回答を得られたこと、最も多かった職場は図書館（図書館司書と図書館員）だったことなど、公務非正規職員の現状が浮き彫りになっています。

就業形態等も、2020年度より自治体で導入された会計年度任用職員が4人に3人を占めること、雇用契約期間は1年が9割弱を占め、1年以下を合わせると93.8%にもなること、収入は2人に1人以上は200万円未満、4人に3人以上は250万円未満だったことなどが明らかにされています。

勤務年数は下表のとおりです。

勤務年数（n=1,252）	通算		現在	
1年目	56	4.5	199	15.9
2年目	65	5.2	182	14.5
3年目	68	5.4	158	12.6
4～5年目	167	13.3	238	19.0
6～10年目	214	17.1	264	21.1
11～15年目	179	14.3	123	9.8
16年目以上	503	40.2	88	7.0

このような長期の勤務年数があるにも関わらず、先述のように収入は低く、劣悪な雇用条件の中に置かれています。「調査からみえてきたこと」から、小見出しだけを取り上げても、

以下のような状況にあります。

- ・ 厳しい経済状況
- ・ 雇用への不安、将来への不安を訴える多くの声
- ・ 雇用期間・雇用年数（不安定な身分）
- ・ 給与が少なく経済困窮、焦燥感を訴える声
- ・ 残業の常態化、勤務時間の削減
- ・ 非正規差別、女性差別を訴える声
- ・ メンタル不調と将来不安
- ・ 会計年度任用職員制度移行期の課題
- ・ コロナ禍での困難

○ 今後の課題（6点あげている。全文掲載します）

- ・ 今回の調査で得られたデータについて、より詳細に分析を進めるとともに、会計年度任用職員制度移行時の不利益変更の事例も声として寄せられていることから、今後、追加的な調査を行う必要を感じている。
- ・ 調査で明らかになったことを広く発信し、公務非正規労働従事者の課題をより多くの人に知らせる活動を行っていく。
- ・ 社会生活の支え手である公務非正規労働従事者が不安定雇用であることは、全ての人の社会生活に関わる重要な課題であり、今、大きな矛盾が生じているということをより広く知らせていく。
- ・ 調査で明らかになった課題をもとに、状況改善に向けた活動や提言を出していく。
- ・ 労働組合、人事委員会などにつながることでできていない公務非正規労働従事者が多数を占めている現状を踏まえ、その間をうめていくような働きかけを労働組合側、働き手、双方にしていけるとよい。
- ・ 当ネットワークの存在をより広く知らせていくことで、全国の職場で孤立している公務非正規労働従事者とのつながりを作り、当事者の声をさらに大きくしていく。

○ 公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）立ち上げのお知らせ

公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）は7月17日、緊急アンケートに関するオンライン報告会を開催しました。ここで、改めて公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）立ち上げのお知らせを掲載します。

<公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）立ち上げのお知らせ>

この度、2021年3月20日に開催した緊急集会「官製ワーキングプアの女性たち コロナ後のリアル」の開催準備に当たった者が中心となり、公務非正規問題について継続して取り組む新たな団体「公務非正規女性全国ネットワーク（通称：はむねっと）」を立ち上

げました。

3月20日の集会には、多くの団体・個人からの賛同が集まり、全国のさまざまな現場から、深刻な現状の訴えが集まると同時に、問題の解決に向けてより多くの人たちが手をつなぎ、声を上げていこうという熱い応援のメッセージが寄せられました。また、当初の予想を上回る賛同金も集まり、この先も、活動を継続し、声を上げ続けていくことへの後押しをいただきました。

集会では、女性を働き手として広がってきた非正規公務問題が、2020年度からはじまった会計年度任用制度とコロナで、一層大きな課題として見えてきていることが共有されました。会計年度任用制度は、単年度雇用＝不安定雇用を法定化した制度であり、単年度任用が厳格化されたことで、現場の働き手には不安が広がり、より声を上げにくい状況が広がってきたことも見えてきました。

また、公務現場の仕事は、一定の経験や知識を必要とするものも多く、対人援助職関係の資格が、国の制度として、新たに作られてきたものの、資格が、安定した職をもたらすものとはなっていない現状も共有されました。

さらには、直接雇用の非正規公務以外の民間委託も広がっており、民間委託された公務現場でもたくさんの非正規の働き手が働いていることも確認されました。

不安定雇用の法定化や、公務の民間委託化によって、公務サービスは、いま、急速に悪化していています。しかし、公務サービスの利用者は、子どもであったり、支援を必要とする大人（DV被害者、失業者など）であったりし、そうした人たちは、声を出しづらい立場にある人たちでもあるのです。

本来、私たち一人ひとりが、安心して暮らすための「公共」が、現場から、崩されていってしまっています。公共は、本来、利益を前提とした民間とは異なる役割をもつ領域であり、そうした場所を維持するためには、そこで働く人たちの「安心」や「安定」も確保される必要があります。

はむねっとは、この先、女性を働き手として広がってきたこの非正規公務問題を解決していくため、広く、公務非正規領域の仕事に従事する女性たち、働き手、また、この問題に関心を寄せる個人と共に、問題解決に向けた調査、提言を行っていく他、交流会や学習会などの企画を開催していきます。

調査・企画へのご参加をお待ちしています。

<参考資料>

- 公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）ウェブサイト

<https://nrwwu.com/>

- 公務非正規労働従事者への緊急アンケート 第一次結果報告書

https://nrwwu.com/main/wp-content/uploads/2021/07/hamunet_1stReport.pdf

